

学 会 録 事

1. Algae2002 (日本藻類学会創立50周年記念事業・第26回日本藻類学会大会・アジア太平洋藻類学フォーラム(APPF)合同会議) 報告

1) 第26回日本藻類学会大会

第26回日本藻類学会大会を表記の大会の中で2002年7月19日～24日、産業技術総合研究所共用講堂(茨城県つくば市)において開催した。大会会長は渡辺眞之氏(国立科学博物館)で、参加者366名、基調講演3題、シンポジウムは69題、ポスター発表は150題に及んだ。

大会1日目は午前会場に設営と受付をおこない、午後は50周年記念公開シンポジウムを同共用講堂で開催した。大会2日目は午前オープニングセレモニー、午後JSP記念講演、JSP50周年功労者表彰がおこなわれ、ポスター発表に続き会場AにてJSP総会を開催した。そして夕刻から筑波大学第二学群食堂で50周年記念パーティーを行った。広い会場の中で、アジア各国からの出席者をはじめ、多くの海外からの出席者を交え、大変和やかに行われた。記念パーティーの参加者は約300名であった。また3日目以降は、3題の基調講演や16セッションにおよぶシンポジウム等の講演があり活発な討議がなされ、24日午後のAPPA評議員・運営委員合同会議に続くクロージングセレモニーを最後に無事、本大会を終えた。

Algae2002の開催に共同してあたられた、独立行政法人国立環境研究所、独立法人産業技術研究所、アジア太平洋藻類学連合(APPA)の各団体、そして援助をいただいた日本植物学会、財団法人井上科学振興財団、つくば市の各賛助団体に厚く御礼申し上げる。また大会の運営に当たっては、渡辺眞之大会会長、50周年実行委員長の堀口健雄氏、Algae2002実行委員会委員長井上勲氏、庶務幹事河地正伸氏の他、Algae2002実行委員会のメンバー等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

2) 日本藻類学会創立50周年記念行事

上記のAlgae2002の中で記念行事が実施された。

(1) 公開シンポジウム「海の植物を守る・知る—今、なぜ藻類か」が2002年7月19日に開催された。一般の方たちの藻類に関する啓蒙を目的としたもので、日本藻類学会、アジア太平洋藻類学連合の主催、産総研の共催で実施した。原会長の挨拶につづき、田中次郎会員の司会のもと、「マラリア原虫は昔、藻類だった!—藻類の多様性と進化—」(堀口健雄会員)、「地球環境を変える藻類—原始地球の酸素生成から酸性雨まで—」(白岩善博会員)、「日本の海岸と海の森—藻場の回復のために—」(寺脇利信会員)、「海の森からのメッセージ—私たちの海を守るために:海に目を向けた環境教育の実践」(横濱康継会員)の4講演がおこなわれた。

(2) 海藻押し葉教室が公開シンポジウムに先立つ7月19日の午前中に一般市民対象として開催された。講師は横濱康継、

野田三千代両会員で、参加者にはAlgae2002に参加の外国人夫妻なども含まれ、海藻絵はがき、しおりなどの作製を楽しんだ。

(3) 海藻展示はAlgae2002の参加者へのピーアールとともに、一般市民への啓蒙の意味も込めて、産総研の会場で開催した(7月19日～25日)。展示された作品は、渡辺勇氏(札幌市在住)の海藻絵画、野田三千代会員の海藻アート、川嶋昭二会員のボタニカルアートおよびコンプ類の大型標本、高橋誠子会員の海藻紙・海藻染めなど。また、特別展示として香淳皇后のお作りになった海藻標本が国立科学博物館の北山太樹会員により展示された。この展示の実施に関しては上記の方々の他に栃木県立博物館の福田廣一氏にご尽力いただいた。また、川嶋昭二会員はその場でボタニカルアートの実演も実施して下さった。

(4) 50周年記念特別講演は2002年7月20日に開催された。Algae2002の会員外の参加者にも日本の藻学の歴史を知っていただく目的で、演者の先生方には英語でのご講演をお願いした。演題は「50 years of the Japanese Society of Phycology」(有賀祐勝会員)、「The Marine Algal Research in Korea: Past, Present and Future in Relation to Japan and Asian Pacific」(Lee In Kyu会員)。

(5) 功労者表彰(50年会員の方の表彰)は特別講演に引き続き行われた。表彰対象となられた会員(敬称略):岩本康三、千原光雄、西澤一俊、舟橋説往、入来義彦、加崎英男、川嶋昭二、喜田和四郎、三浦昭雄、辻寧昭、山岸高旺、吉田忠生、福島博で、出席の会員には学会長より記念品(ガラス楯)と感謝状が贈呈された。また、欠席の会員には後日郵送された。(50周年記念事業実行委員会より:50年会員の調査には全力をあげましたが、当時の記録が散逸していることなどもあり、50年会員であられながら今回表彰されなかった会員の方がおられるかもしれません。その場合には、北大・堀口(011-706-2738)まで是非ともお知らせください。)

(6) 高校生ポスター発表は藻類学会では初めての試みとして藻類の研究を行っている高校生のグループをAlgae2002に招待し、英語でポスター発表をおこなった。北海道札幌清田高校、島根県大田高校および宮城県気仙沼西高校の参加を得た。国内外の参加者に大変好評であり、参加高校生の感想などは本号の参加記をご覧いただきたい。

(7) 記念パーティーは50周年記念とAlgae2002の歓迎会を兼ねて2002年7月20日筑波大学にて開催した。上記の高校生への表彰もこの場で行った。

(8) 藻類グッズ作製・販売はAlgae2002の合同企画として、作製と販売とを行った。南雲保、福田廣一、横濱康継、野田三千代の各会員ならびに筑波大学、山形大学の学生会員の方々のおかげで多彩なグッズを揃えることができた。

(9) 記念出版事業の「21世紀初頭の藻学の現況」はほぼ編集が終了しており、近々ネット上で公開できる予定である。冊子

体については詳細が決まり次第、お知らせする。

(10) 藻類学啓蒙活動は独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターの子どもゆめ基金の助成を受け、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所にて小中学生を対象として「海の森の不思議を探る－夏休み海藻生態体験活動2002－」を8月10-12日に実施した(担当:本村泰三会員, 堀口健雄会員)。

なお、以上の50周年記念事業に関しては、Algae2002準備委員会の方々に大変なお世話になった。また、上記の講演会、展示企画、押し葉教室、啓蒙活動などの開催に関しても会員各位の献身的なご協力をいただいた。記してお礼申し上げます。(日本藻類学会創立50周年記念事業実行委員会 堀口健雄)

3) Algae2002 参加者名簿

Abe, Mahiko; Abe, Shin-ichiro; Ahn, Jung Kwan; Ajsaka, Tetsuro; Akatsuka, Satoko; Akiyama, Machiko; Aminina, Natalia; Andersen, Robert A.; Ang, Put Jr.; Aoki, Masakazu; Arai, Shogo; Aruga, Yusho; Beardall, John; Blackburn, Susan Irene; Boo, Sung Min; Broom, Judy; Carmona, Raquel; Chah, Ok-Kyong; Chang, F.H.; Chean, Hyo Jin; Cheang, Chi Chiu; Chiba, Hideki; Chihara, Mitsuo; Chirapart, Anong; Chirapart, Sirichart; Cho, Soo-Yeon; Cho, Ga Youn; Choa, Jong-Hun; Choi, Chang Geun; Choi, Yong Woo; Chou, Gai; Chu, Chun-Yao; Chu, Wan-Loy; Chung, Ik Kyo; Cohen, Ephraim; Critchley, Alan; Dadheech, Pawan K; Dan, Akinori; Day, John; Denboh, Takashi; Ebata, Hiroki; Einarsson, Arni; Erata, Mayumi; Erata, Tomoki; Fan, King Wai; Friedl, Thomas; Fujii, Rica; Fujii, Tadashi; Fujita, Daisuke; Fukaya, Sachiko; Fukuda, Hiroichi; Fukumoto, Ryo-hei; Fukuzawa, Hideya; Ganzon-Fortes, Edna T.; Gol'din, Evgeny; Goto, Takanori; Gupta, Rajan Kumar; Hamada, Jin; Han, Myung-Soo; Hanaoka, Hideo; Hanawa, Yutaka; Handa, Shinji; Hanyuda, Takeaki; Hanzawa, Naoto; Hara, Yoshiaki; Haraguchi, Etsuko; Hasegawa, Kazukiyo; Hashimoto, Naoko; Hashioka, Takashi; Hatano, Kyoko; Hatano, Yumi; Hayashi, Masahiro; Hendrayanti, Dian; Higa, Atsushi; Hiraoka, Masanori; Hiroishi, Shingo; Hishinuma, Yuu; Hommersand, Max H.; Honda, Daisuke; Honda, Masaki; Honoki, Hideharu; Hori, Terumitsu; Horiguchi, Takeo; Hoshina, Ryo; Hu, Songnian; Hu, Xiao-Yan; Ichimura, Terunobu; Idei, Masahiko; Iijima, Noriko; Iima, Masafumi; Imai, Ichiro; Imai, Masae; Imamura, Masahiro; Inoue, Ryoji; Inouye, Isao; Inthorn, Duangrat; Ishida, Ken-ichiro; Ishida, Tatsuya; Ishikawa, Ikuko; Ishimoto, Kayo; Ishimoto, Miwa; Itakura, Shigeru; Itou, Yusai; Iwaki, Hiroyuki; Iwamoto, Koji; Iwataki, Mitsunori; Jo, Beom-Ho; Joo, Hyoung Min; Jung, seung Won; Junshum, Pongsarun; Kakita, Hirotaka; Kamiya, Mitsunobu; Kanaizuka, Yasuhiro; Kang, Hyun Suk; Kang, Yung Hee; Kanzawa, Kouhei; Kasai, Fumie; Kataoka, Hironao; Katayama, Nobuyasu; Kato, Aki; Kato, Misako; Kawachi, Masanobu; Kawaguchi, Shigeo; Kawai, Hiroshi; Kawashima, Shoji; Kaya, Kunimitsu; Kendrick, Gary; Khemdaeng, Vamit;

Khuanpet, Anchalee; Kikuchi, Norio; Kim, Kim, Dong-oun; Kim, Eun Jin; Kim, Hyung-Geun; Kim, Jee-Hwan; Kim, Jeong Ha; Kim, Jung Mo; Kim, Keun-Yong; Kim, Nam Gil; Kim, Nan Hee; Kim, Sang Hun; Kim, Sang il; Kim, Sung-Ho; Kim, Young Hwan; Kim, Young Taek; Kim, Young-Soo; Kim, Chang-Hoon; Kim, Gwang Hoon; Kitade, Yukihiro; Kitayama, Taiji; Klanbut, Khanungkan; Klochkova, Tatiana A.; Klotchkova, Nina G.; Ko, Young Wook; Kobayashi, Atsushi; Kobayashi, Masami; Kobayashi, Yoshie; Kobori, Yoko; Kogame, Kazuhiro; Kondo, Atsunobu; Kondou, Kimihiko; Krupnova, Tatyana; Kudo, Hajime; Kumano, Masanobu; Kumano, Shigeru; Kumar, Manoj; Kunpradid, Tatporn; Kuntanawat, Panwong; Kurashima, Akira; Kuwano, Kazuyoshi; Lee, In Kyu; Lee, Jin Ae; Lee, Jin Hwan; Lee, Joon-Baek; Lee, Sang-Hee; Lewmanomont, Khanjanapaj; Li, Dapeng; Lim, Phaik Eem; Lim, Wol-Ae; Lin, Liang-ping; Lindstrom, Sandra; Lobban, Christopher S.; Maegawa, Miyuki; Mahakhant, Aparat; Maruyama, Tadashi; Matsuda, Yoshihiro; Matsumoto, Satoko; Matsumura, Tomoaki; Matsumura, Wataru; Matsuo, Yoshihide; Matsuyama, Kazuyo; Matsuzaki, Motomichi; Mayama, Shigeki; Millar, Alan; Mine, Ichiro; Misonou, Taku; Miya, Taijin; Miyaji, Kazuyuki; Miyakawa, Akihisa; Miyamura, Shinichi; Miyashita, Hideaki; Miyata, Masahiko; Mizuno, Makoto; Monotilla, Wilberto D.; Mori, Fumi; Morita, Eiko; Morita, Teruo; Moriya, Mayumi; Moromizato Satoshi; Morozova, Tatiana; Motomura, Taizo; Muraoka, Daisuke; Nagasato, Chikako; Nagashima, Hideyuki; Nagashima, Mikako; Nagumo, Tamotsu; Nakahara, Miho; Nakahara, Toro; Nakajima, Yasushi; Nakayama, Takeshi; Nakazawa, Atsushi; Nam, You Jin; Nanba, Nobuyoshi; Nelson, Wendy; Ngearnpat, Neti; Niiyama, Yuko; Ninomiya, Sayuko; Nishitani, Goh; Nishizawa, Kazutoshi; Niwa, Kazuki; Niwasabutra, Shamaporn; Noel Kawachi, Mary-Helene; Noro, Tadahide; Notoya, Masahiro; Nozaki, Hisayoshi; Obata, Toshihiro; Obitsu, Naohiko; Ochi, Akihiko; Ogawa, Shunsuke; Ogorodnikov, Vyacheslav; Ohba, Hideo; Ohki, Kaori; Ohmori, Masayuki; Ohmura, Yoshihito; Ohno, Masao; Ohtani, Shuji; Oka, Naohiro; Okamoto, Noriko; Okamura, Tomomi; Okuda, Kazuo; Okuda, Shun-ichi; Otsuka, Shigetou; Panuvanitchakorn, Nopparat; Park, Jisun; Park, Joong-Goo; Park, So-Hyun; Pavlyuchkov, Vladimir; Pe-Montebon, Maria Johanna; Peerapornpisal, Yuwadee; Phang, Siew-Moi; Phillips, Julie; Phooprong, Sukanya; Pickett-Heaps, Jeremy D.; Podkorytova, Antonina; Qin, Song; Reitalu, Triin; Ruangchuay, Rapeeporn; Saga, Naotsune; Saitou, Junko; Sakaguchi, Kazuaki; Sakanishi, Yoshihiko; Sakaushi, Shinji; Sakayama, Hidetoshi; Sakurai, Ryosuke; Sano, Yoshikazu; Sato, Hiroshi; Sato, Masanori; Sato, Shinya; Satoh, Masaya; Sekida, Satoko; Sekiguchi, Hiroshi; Sekimoto, Hiroyuki; Sekimoto, Satoshi; Serisawa, Yukihiko; Shevchenko, Olga; Shimada, Satoshi; Shin, Jong-Ahm; Shin, Mee Young; Shiraiwa, Yoshihiro; Shizuri, Yoshiichi; Soejima, Akiko; Sohn, Chul

Hyun; Son, Moon Ho; Song, Ji Ho; Song, Lirong; Stirawatkul, Chatraporn; Suda, Shoichiro; Sugawara, Daisuke; Supan, Sutthawan; Suto, Itsuki; Suzawa, Ken; Suzawa, Tamie; Suzuki, Hidekazu; Suzuki, Masae; Suzuki, Masahiro; Tabata, Satoshi; Taino, Seiya; Taira, Masahiro; Takahashi, Akiyoshi; Takano, Yoshihito; Takao, Yoshitake; Takeshita, Shunji; Takio, Susumu; Takishita, Kiyotaka; Tanabe, Yuuhiko; Tanaka, Atsuko; Tanaka, Hiroshi; Tanaka, Jiro; Tanaka, Sadako; Tanifuji, Goro; Terada, Ryuta; Terawaki, Toshinobu; Toyoda, Kensuke; Tsuchikane, Yuki; Tsuji, Akihiro; Tsujimura, Shigeo; Tsuno, Masatoshi; Uchimura, Masayuki; Wakana, Isamu; Wang, Gaoge; Watanabe, Makoto M.; Watanabe, Masayuki; Watanabe, Shin; West, John; Wilson, Sarah; Wynne, Michael J.; Yamada, Iemasa; Yamaguchi, Takashi; Yamashita, Naoyuki; Yamauchi, Ichiro; Yamazaki, Natsuko; Yan, Xing-Hong; Yang, Eunchan; Yano, Tomomi; Yarish, Charles; Yashiro, Kotaro; Yermak, Irina; Yokohama, Yasutsugu; Yokoyama, Akiko; Yokoyama, Rinka; Yokozuka, Masami; Yoo, Jong Su; Yoo, Kyong Dong; Yoshida, Goro; Yoshida, Masaki; Yoshida, Tadao; Yoshii, Yukie; Yoshikawa, Shinya; Yoshimi, Keiichirou; Yoshizaki, Makoto; Yotsukura, Norishige; Yumoto, Kosei; Yun, Hee Young; Yunoki, Shunji; Zhu, Wenrong;

4) 編集委員会・評議員会

7月18日の午後3時から国立科学博物館植物研究部会議室において、英文誌編集委員会および和文誌編集委員会の合同編集委員会を開催した。和文誌について田中編集委員長より第49、50巻「藻類」の編集状況に関する報告などがあった。今年度よりA4版化されたが、投稿論文が減ってきており、会員の意見等もとられながら掲載内容をより充実していくことの方策などが話し合われた。英文誌については本村編集長が公務で欠席のため、同じく田中編集委員長から「Phycological Research」の編集状況および年間投稿状況に関する報告などがあった。さらに同誌に対する科学研究費補助金を今後も維持するためには、より国際情報発信としての役割を高めて外国人購読者数を増やしていく必要があることなどが議論された。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後5時より開催され、2002年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

合同編集委員会・評議員会開催にあたっては渡辺眞之氏、辻彰洋氏をはじめ、国立科学博物館植物研究部の関係諸氏に大変便宜を払っていただいた。記してお礼申し上げる。

5) 2002年度総会

2002年7月20日のポスター発表終了後、午後4時より産業技術総合研究所共用講堂会場Aにて総会を開催した。原会長の挨拶の後、吉崎誠氏を議長に選出して総会の議事に入った。

【報告事項】

●庶務関係

(1) 会員状況(2001年12月31日現在):名誉会員3名、普通会員618名、学生会員75名、団体会員57名、賛助会員14名、外国会員128名(33カ国)、国内購読34件。(2) 2001年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は1,900,000円であった。(3) 第25回大会を3月27日～29日に日本歯科大学歯学部で開催した。(4) 評議員会を2001年3月27日に、総会を翌28日にそれぞれ日本歯科大学歯学部にて開催した。(5) 公開シンポジウム「生物はいかにして硬くなったかーバイオミネラルゼーション研究の最前線」(3月27日、日本歯科大学歯学部)を開催した。(6) 秋季シンポジウム「藻類由来の機能性成分の研究と利用の展望」(11月16日、ロイヤル・パークホテル)を共催した(詳細は「藻類」49巻3号、49巻1号を参照のこと)。(7) 第4回日本藻類学会論文賞を授与(Xing-Hong Yan氏、有賀祐勝氏)した。(8) 第5回マリンバイオテクノロジー学会(マリンバイオ静岡2001、5月25～26日、静岡コンベンションアーツセンター)に協賛した。(9) アジア太平洋藻類学連合国際シンポジウム「21世紀の藻類学にむけて」(6月22日～25日、山形大学・理学部)を共催した。(10) 日本植物学会第65回大会で藻類関係のシンポジウム「ゲノム時代の細胞外皮研究の方向性を探る」(責任者、奥田氏)を開催した。(11) 日本植物学会第65回大会で「海外学術調査―第5回植物分類学関連学会連絡会シンポジウム―」に参画した。

●会計関係

(1) 2002年3月8日現在の2001年度会費納入率は、一般会員92%、学生会員75%、賛助会員86%、団体会員72%、外国会員94%であった。(2) その他の事項に関しては審議事項参照のこと。

●編集関係

(1) 2001年度に発行した和文誌「藻類」第49巻1～3号は、総頁数271頁、内訳は原著論文・短報6編、総説1編、研究技術紹介4編、その他であった。(2) 2001年度に発行した英文誌「Phycological Research」第49巻1～4号は、総頁数301、掲載論文36編であった。

【審議事項】

●庶務関係

(1) 以下の2002年事業計画が承認された: 1. Algae2002(第26回大会・評議員会・総会、JSP50周年記念行事、第3回アジア太平洋藻類学フォーラム合同会議(APPF): 独立法人産業技術総合研究所・共用講堂)の開催、2. 第5回日本藻類学会論文賞の授与と第6回論文賞の選考、3. 和文誌「藻類」50巻1～3号の発行、4. 英文誌「Phycological Research」50巻1～4号の発行、5. 秋季シンポジウム「新しい海藻由来の製品の科学的検討」の開催(世話人大野正夫氏)、6. 第6回マリンバイオテクノロジー学会大会(東京農工大学・工学部)の協賛、7. 日本植物学会66回大会(京都)時の植物分類学関連学会連絡会主催のシンポジウム「集める・貯める・使う: 時空を越える生物多様性の情報」への参画(植物分類関連学会連絡会、芝池

氏と神田氏が世話人), 8. 会長・評議員選挙, 9. 次期 Phycological Research の編集長・「藻類」編集委員長の選出 (編集委員会内規), 10. 日本学術会議第19期学術研究団体登録と会員候補者の推挙, 11. Algae2002 のプロシーディングの発行。

(2) 2003年以降の「Phycological Research」の出版契約は, 編集および英文校閲の質の高さから, 大幅な契約内容の変更がなければBlackwell社との継続契約を事務局一任することが承認された。

(3) 2004年の日本藻類学会大会は北海道地区 (代表: 本村泰三氏) にお願ひし, 開催時期等については同代表に一任することが承認された。

(4) 平成14年度秋季シンポジウムはすでに「藻類」50巻2号に掲載されているように, 大野正夫氏のご尽力により本年12月6日に東京・ロイヤルパークホテルで開催されることが承認された。

(5) 昨年度の総会で提案された決議機関としての総会の位置づけについて審議され, 日本藻類学会会則第10条に, 「なお, 会務に議決を要する場合は総会が行う。」の文言を付記することが承認された。

(6) 「日本分類学会連合」設立の経緯等の説明後, 加盟について審議され, 承認された。

(7) その他として, 1. International Association of Plant Taxonomy (IAPT) の日本開催会議への参加・協力依頼, 2. 本学会員の野田三千代氏の海藻おしは展の後援依頼, 3. 2004年, 世界微生物株保存連盟による 10th International Congress of Culture Collections (つくば市) の後援依頼, 4. マリンバイオテクノロジー国際会議2003への協賛と「藻類」への開催通知掲載依頼の4件について審議し, いずれも承認された。

● 会計関係

(1) 2000年度一般会計決算報告および同監査報告は表1-1,1-2の通り承認された。

(2) 2000年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2-1,2-2の通り承認された。

(3) 2001年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表3および表4の通り承認された。

【日本藻類学会論文賞授与】第5回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれた。これは2001年度に出版された「藻類」および「Phycological Research」の中から, 規定により審査員の投票によって選ばれ, 総会の前々日に開催された編集委員会および評議員会で了承を受けたものである。今回の投票では, 最高得票数を得た以下の論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

Development of the cell covering in the dinoflagellate *Scrippsiella hexapraecngula* (Peridinales, Dinophyceae). Phycological Research 49(3): 163-176 (2001) 受賞者: 関田諭子氏, 堀口健雄氏, 奥田一雄氏

2. 2003・2004年度日本藻類学会会長・評議員選挙の投票結

果について

2003年1月1日から2004年12月31日を任期とする会長・評議員選挙が平成14年7月1日から7月31日の期間おこなわれた。平成14年8月5日午後1時より, 山形大学理学部生物学科会議室において, 日野修次氏 (山形大) の立ち会いのもとで開票をおこなった。結果は以下のとおりである。

[会長選挙]

原 慶明 (当選); 増田道夫 (次点)

[評議員選挙]

北海道地区 (定員2名) 本村泰三 (当選), 嵯峨直恆 (当選); 市村輝宣 (次点)

東北地区 (定員2名) 横浜康継 (当選), 片岡博尚 (当選); 小河久朗 (次点)

関東地区 (定員3名) 井上 勲 (当選), 吉崎 誠 (当選), 渡辺 信 (当選); 宮田雅彦 (次点)

東京地区 (定員2名) 田中次郎 (当選), 真山茂樹 (当選); 南雲 保 (次点)

中部地区 (定員3名) 藤田大介 (当選), 前川行幸 (当選), 天野秀臣 (当選); 御園生拓 (次点)

近畿地区 (定員2名) 中原紘之 (当選), 今井一郎 (当選); 川井浩史 (次点)

中国四国地区 (定員2名) 寺脇利信 (当選), 奥田一雄 (当選); 大谷修司 (次点)

九州地区 (定員2名) 藤田雄二 (当選), 川口栄男 (当選); 野呂忠秀 (次点)

3. その他の報告

(1) 第1回持ち回り評議員会 (平成14年5月31日開催) 報告 後援・協賛依頼と次期会長候補者の推薦について審議した。後援・協賛依頼は以下の3件について審議し, いずれも了承された。1. 本学会員の野田三千代氏より一野田三千代海藻おしは展「美しい海の植物」ー (平成14年8月17日~29日, 新宿パークタワー・ギャラリー3) の後援依頼。2. 本学会員の渡辺信氏 (国立環境研) からの世界微生物株保存連盟 (WFCC) による10th International Congress of Culture Collections (2004年, つくば市開催) の後援依頼。3. マリンバイオテクノロジー国際会議2003組織委員会委員長松永是氏からの, 同国際会議 (平成15年9月21日~29日, 千葉県木更津市にて開催) への協賛団体としての参加と学会誌への開催通知掲載の要請。

また次期会長候補の推薦については, 各評議員の投票により, 同票を含め6名の方が選出され, 平成13年4月20日開催の持ち回り評議員会で審議した会長選挙における評議員会の候補者推薦に関する申し合わせ事項に則り (藻類49巻2号P168参照), 各候補者に推薦許諾の問い合わせを行った。その結果, 評議員会は川井浩史氏, 原慶明氏, 増田道夫氏, 渡辺信氏 (国立環境研) の4名を次期会長候補者として推薦した。

(2) 平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の Phycological Research への交付内定について

昨年申請した上記促進費に対し、日本学術振興会から2,100,000円の内定通知があった。

(3) 第2回持ち回り評議員会(平成14年8月10日開催)報告
以下の2件について審議した。1. Chlamy2004の後援依頼について: 学会員の松田吉弘氏より2004年5月11-15日, 神戸国際会議場(神戸ポートアイランド)で開催される11th International conference on the Cell and Molecular Biology of Chlamydomonas (Chlamy2004)への本学会の講演依頼があり, 了承された。2. 第9回国際藻類学会(2009年開催)の立候補について: 国立環境研究所に滞在中のAndersen氏(国際藻類学会・庶務幹事)より本学会員の河地正伸氏(国立環境研究所)を通じて, 第9回大会開催地として立候補について, 内々の間合わせがあった。これを受け, 過去には藻類学会が態度表明を遅らせたために, 国際藻類学会の開催を逸した経緯もあることから, 早急に学会としての態度を決める必要があり, 各評議員の意見聴取をおこなった。基本的には立候補に賛同する意向が寄せられた。

(4) 第3回持ち回り評議員会(平成14年8月24日開催)報告
第2回持ち回り評議員会で意見聴取した第9回国際藻類学会(IPC9)に関連して, IPC9への立候補のためには9月16日までに, IPC事務局のガイドラインに沿って申請書作成しなければならぬため, 1)IPC9立候補について, 2)IPC9立候補表明までの手続きは学会事務局および事務局から依頼した若干名の会員によるワーキンググループに一任するの2件の議案について審議した。その結果, 2件とも了承された。なおIPC9についての基本計画等については, 開催が認められ次

第, 本誌や藻類学会ホームページへ掲載する予定である。

(5) 日本学術会議第19期学術研究団体の登録について

日本学術会議第19期会員の選出に係る学術団体の登録申請を平成14年5月に行った。その結果, 日本学術会議会員推薦管理会から9月13日付で第19期の学術研究団体に登録された旨の連絡があった。また関連研究連絡委員会名は「植物科学」関連研究連絡委員会で, 会員名簿に基づく学術研究従事者数は741名である旨の通知があった。

(6) 植物分類学関連学会連絡会第15回会議報告

表記の第15回会議が2002年9月23日に京都大学理学部2号館で開催された。藻類学会からは菱沼佑庶務幹事が出席した。代表が出席した他の学会は地衣類研究会, 種生物学会, 植物地理分類学会, 日本シダ学会, 日本植物分類学会, 日本蘚苔類学会であった。

会議では, 1. 例年通り来年秋の植物学会大会でも連絡会企画のシンポジウムを開催することを確認し, 同シンポジウムの内容について検討を行った。その結果, 連絡会企画のシンポジウムを「共進化」あるいは「Evo-Devo (evolutionary development)」関係の課題で企画することになり, シンポジウムの代表担当者は木下氏(地理分類)とし, 綿野氏(植物分類)がサポートすることとなった。具体的なタイトル等については次回の連絡会議で検討することになった。2. 2004年に日本で開催される国際植物分類学会議(IAPT)についての準備状況が報告され, 詳細については後日, 各関連学会へ連絡することになった。3. 最後に次回会議を来春の日本植物分類学会大会(神戸大学)の期間中に持つことが合意された。

編集後記

区切りのいい50巻をもって私どもの編集を終える。まさに一巻の終わり。51巻以降3年間は三重大学前川新編集長, 倉島副編集長という強力打線での編集となる。これまで3年間編集実行委員の方々には大変にお世話になり, 心より御礼申し上げます。今後は本誌に投稿する側で心おきなく利用させていただく。(JT)

3年間の編集作業は大変ではありましたが, 割付作業などいろいろな技術も身に付きそれなりに良い経験ができたと思っています。今後も一層充実した会誌が会員の元に届くことを祈念しております。(TN)

2003年より編集委員会が移ります。今後は和文誌藻類へのご投稿は下記にお願いいたします。

送付先: 〒514-8507 三重県津市上浜町1515

三重大・生物資源 前川行幸 編集委員長

電話 059-231-9530 FAX 059-231-9523

表 1-1. 2001 年度一般会計決算 (2001.1.1-2001.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	7,130,742	和文誌印刷・発送費	1,442,458
普通会員	4,705,000	印刷代	1,004,293
学生会員	257,000	別刷代	262,395
外国会員	594,110	発送費	175,770
団体会員	870,000	英文誌印刷・発送費	5,615,555
賛助会員	617,940	編集費	277,994
その他	86,692	庶務費	433,373
販 売	58,000	事務用品費	155,588
定期購読	9,000	通信印刷費	149,095
バックナンバー	49,000	諸雑費	128,690
別刷代	185,600	第 25 回大会補助費	120,000
超過頁負担代	228,000	公開シンポジウム補助費	600,000
広告代	20,000	秋季シンポジウム補助費	50,000
受取利息	1,500	APPA シンポジウム補助費	50,000
学術振興会刊行助成金	1,900,000	学術協力財団事業費	10,000
文科省公開講座助成金	600,000	自然史学会連合分担金	20,420
英文誌還付金	206,611	植分連合同名簿分担金	1,308
小 計	10,330,453	小 計	8,621,108
前年度繰越金	8,652,454	次年度繰越金	10,361,799
合 計	18,982,907	合 計	18,982,907

表 1-2. 2001 年度貸借対照表 (2001.1.1-2001.12.31)

貸 方 (円)	借 方 (円)
普通預金 (山形銀行, 東山形)	未払金
4,840,095	65,347
普通預金 (四国銀行, 朝倉)	前受会費
726,056	2,616,000
郵便口座 (山形)	次年度繰越金
1,549,010	10,361,799
郵便口座 (高知)	前年度繰越金
3,540,090	8,652,454
現金 (山形)	当期余剰金
23,010	1,709,345
未収金	
2,364,885	
合 計	合 計
13,043,146	13,043,146

表 2-1. 2001 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2001.1.1-2001.12.31)

収 入 (円)	支 出 (円)
受取利息	論文賞用雑費
2,306	1,843
小 計	小 計
2,306	1,843
前年度繰越金	次年度繰越金
2,598,265	2,598,728
合 計	合 計
2,600,571	2,600,571

表 2-2. 2001 年度山田幸男博士記念事業特別基金貸借対照表

貸 方 (円)		借 方 (円)	
定期預金 (三井住友, 京都)	1,900,000	次年度繰越金	2,598,728
普通預金 (三井住友, 京都)	694,514	前年度繰越金	2,598,265
現金 (山形)	4,214	当期余剰金	463
合 計	2,598,728	合 計	2,598,728

日本藻類学会 2001 年度決算報告書に対し記名捺印する。 2002 年 7 月 16 日

会 長 原 慶明 印
 会計幹事 半澤 直人 印

決算書が適正であることを認める。

2002 年 7 月 16 日

会計監査 日野 修次 印
 横山 亜希子 印

表 3. 2002 年度一般会計予算 (案) (2002.1.1-2002.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	5,943,600	和文誌印刷・発送費	2,800,000
普通会員	3,996,000	印刷代	2,200,000
学生会員	202,500	別刷代	300,000
外国会員	597,600	発送費	300,000
団体会員	769,500	英文誌印刷・発送費	6,150,000
賛助会員	378,000	編集費	600,000
販 売	250,000	編集補助費	200,000
定期購読	200,000	通信補助費	300,000
バックナンバー	50,000	事務用品費	100,000
別刷代	250,000	庶務費	550,000
超過頁負担代	200,000	事務用品費	150,000
広告代	120,000	会議費	50,000
受取利息	3,000	通信印刷費	200,000
学術振興会刊行助成金	2,100,000	諸雑費	150,000
英文誌還付金	100,000	事務補助	20,000
雑収入	2,000	幹事旅費補助	100,000
寄付金	20,000	Algae2002 補助費	300,000
		秋期シンポジウム補助費	50,000
		自然史学会連合分担金	20,000
小 計	8,988,600	小 計	10,590,000
前年度繰越金	10,345,799	次年度繰越金	8,722,399
合 計	19,312,399	合 計	19,312,399

表 4. 2002 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算(2002.1.1 ~ 2002.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	4,000	論文賞用雑費	3,000
小 計	4,000	小 計	3,000
前年度繰越金	2,598,728	次年度繰越金	2,599,728
合 計	2,602,728	合 計	2,602,728

会 員 移 動

